



# MEITOKU JOURNAL



SPRING  
HAS  
COME

2020 SPRING

特集

あなたにとっての  
安心・安全・安らぎ

RELIEF SAFETY RELAX

SUPPORTER

サポーター

Face  
フェイス

PICK UP!

やまぼうしの会

Yamaboushi no kai

「ケアハピネス・  
めいとくの里見学にて」

THANKS FEEDBACK

障がい者グループホーム

アクアテラス

AQUA TERRACE

VOICE

ボイス

めいとくの里に入所して

MEITOKUNOSATO NI NYUUSYOSITE





チャレンジめいとくの里  
送迎支援員  
才田 匠

私の「安心・安全・やすらぎ」とは

皆さんが要所・要所において、  
普段通りの挨拶が  
できることです。

私は、ご利用者の送迎を行っています。送迎のコースは9コースあります。今回は、その送迎コースのご利用者様についてお話ししたいと思います。

朝のお迎えは、毎日7時40分に施設を出発します。最初のご利用者様のご自宅に到着するまでは、今日のご利用者様の体調や気分はどうかなど考えながらお迎えに行っています。

このコース最初のご利用者様はIさんです。Iさんは必ず挨拶をさせていただきます。それも乗る前と乗った後と、必ず二度挨拶をされます。そしてお送りした際は、私の顔を見て挨拶をされるという礼儀正しい方です。Iさんは時々私に声を掛けられることがあります。その際私の名前、それも姓ではなく名前で「たくみさん」と呼ばれ

ます。他の送迎の方などには名前で呼ばれることがないので、いつも親しみを持って返事をしています。

次のご利用者様はNさんです。Nさんはとてもお父さんが好きです。お父さんが乗せたり、降ろしたりされますが、その際とても嬉しそうにお父さんの手をしっかりと握っています。しかし、時々「ママ・ママ」と車中でお母さんと呼ぶこともあり、お父さん・お母さん共に好きな方です。Nさんは私が施設で車に誘導しようとする時、時々わざと反対の方向へ行こうとしたりする、少しお茶目なところもあります。

次はTさんです。Tさんは足が少し不自由な方です。送迎は少し大きな車両を使いますが、お母さまが上手に乗せ降ろしをされます。私も施設での乗降の際には、お母様の要領を真似させて頂き、とても楽に乗せ降ろしをすることができています。Tさんは楽器などをもって乗られ、車中ではそれを鳴らしたり聞いたりするのを楽しみにしています。音楽好きなTさんです。

次のHさんはとてもお母さんが好きです。朝の出発の際は少し悲しそうに、車に乗るとお母さんの顔をできるだけ見ない様になっていますが、帰った際お母さんの顔が見えると満面の笑顔をされ、すぐにお母さんに話かけられます。Hさんは車中ではよく眠ることが多いのですが、時々私が車から離れた際などオーディオに触れることがあります。テレビやラジオがとても好きなHさんです。

次のKさんは最近ご利用されるようになりました。明るいお母様の見送りで元気に車に乗られます。まだ、お乗せした回数が少ないのですが、元気さは他の誰よりも負けないような気がします。とても元気なKさんです。

最後のご利用者様はYさんです。YさんはIさんと同様に必ず挨拶をされる方です。しかし、Yさんの挨拶は少し変わっています。敬礼の挨拶です。最初はびっくりしましたが、今ではYさんとその挨拶をすると、私も元気が出ます。Yさんは以前お送りした際は、駐車場からお家まで私と一緒に帰っていたのですが、この頃は車から降りますが、お母さんが来ないと家に帰ろうとしません。お母さんの顔を見ると笑顔となり、お母さんと一緒に私を見送ってくださいます。この頃はお母さんにとても甘えん坊なYさんです。

以上が、このコースでのご利用者様です。明日はまた別のコースの送迎となり、別のご利用者様とお会いすることになります。とても楽しみです。

私は今、とても幸せです。公私ともに充実しています。

職場へ来ると、ご利用者様が笑顔で迎えてくれ、時には仕事を忘れてしまうほど、楽しくて仕方がない日もあります。

仕事を終え帰宅すると、家族の笑顔が待っています。私の原動力は家族から貰う笑顔です。

そこから私のエネルギーが蓄えられ、そのおかげで、たくさんの笑顔を還元する事が出来ています。

「人は、人の笑顔で救われる…」そんな言葉を、きれいな事と思われる方もいるかもしれませんが、

私は、紛れもなく本当だと思っています。

今、隣に居る人を見てください。大切な人を想ってみてください。その人は、怒っていませんか？悲しんでいませんか？

作り笑顔ではないですか？もしかすると、救いを待ってるかもしれません。話を聞いてもらいたいと思っているかもしれません。

…こんな風に、「人に寄り添いたい。人との縁を大切にしたい。」と思える様になったのは、

この職場に働かせて頂いたおかげです。

支援員が真摯に ご利用者様を想い、ご利用者様のご家族との連携も大切にしている。

時には支援員同士が熱く語らい、互いを尊重する

…そんな「チャレンジ めいとくの里」は私の誇りです。

1日も早く 一人前の支援員になれるよう これからも、日々 努力を行い、学んでいこうと思います。

私の「安心・安全・やすらぎ」とは

ホッと一息ついた時に  
そこにあるもの



チャレンジめいとくの里  
生活支援員  
金丸 輪香子



ゆめくらしワークス  
サービス管理責任者  
福田 悟

私の「安心・安全・やすらぎ」とは

- 誰かに認められること
  - 誰かに必要とされていること
  - 誰かに支えられていること
- これらが自分で感じられる  
状況・状態だと思います。

RELIEF  
SAFETY  
RELAX

MEITOKUKAI

特集

あなたにとっての  
安心・安全・やすらぎ

これまでめいとくの里で支援の仕事を続けることができた、その原動力となり、心の支えになった出来事についてお話ししたいと思います。

めいとくの里が開所した当時は、入所と通所デイサービスのみで職員も20名、入所利用者の方も男女合わせて30名ほど（通所利用は1名）でした。

開所当時は道具や設備がほとんどなく、日々の活動をどうするか、入所された方たちに夜の時間をどのように過ごしてもらうかなど夜遅くまで支援員同士でアイデアを出し合い、手探り状態で進めていました。

そんな中、環境が変わることへの不安感が強いある入所のご利用者様が、入所初日に建物の中に入ることができない、駐車場から動くことができないという状態になったことがありました。その後、数か月間で家族の協力で自宅と施設との往復する状態が続き、来所した時の過ごし方や支援員の接し方など、ご本人がどうしたらめいとくの里で「安心・安全・やすらぎ」を持って生活できるのかを支援員とご家族一緒になって毎日、毎日考えました。

そのかいもあり、少しずつその方に変化が見られ、その度にご家族へそのことを伝え、共に喜びあえた結果、居室に入り泊まれるようになりました。

その経験から、支援という仕事は本人を取り巻く様々な関係者と連携・協力していき、よい方向に向かったことを共に喜び合い、次につなげて行くことが大切だという事を学びました。

そして、それができる、やろうとする、その後押ししてくれる、風土がこの法人にはあると最初に感じられたので、今もめいとくの里で働き続けている私の理由（心の支え）となっています。



# RELIEF SAFETY RELAX MEITOKUKAI

特集

あなたにとっての  
安心・安全・安らぎ

私の「安心・安全・やすらぎ」とは

笑顔：自分も周りの方々も  
これがあれば大丈夫。  
私が笑っていれば  
みんなで笑える。

私が大学を卒業後、チャレンジめいとくの里のオープニングスタッフとして働き始めて今年で15年目となりました。23歳の青年が37歳のおじさんになってしまいました。障がいの現場で働く中でたくさんの経験から感じた想いは数えきれません。

その中でも初年度の2月から始めた「Discoめいとくの里」はのちに「めいとくと言えはDisco」と言われるものになりましたが、最初の発案の時の想いは今でも忘れられません。「自分たちは仕事の後の夜に街に遊びに行くときあるでしょ。入所していてもそんな楽しみの場は必要だね」(誰が言ったかは忘れませんが…)といった内容の言葉です。当時の私は「障がいがあるから…」という思いがまだ頭にあり「夜にDisco?」と疑問でしたが、毎月第1金曜日にあるDiscoの回数を重ねる度に楽しめるようになり、楽しくなってきました。

そんな自分が楽しむということは、私が高校生の時のボランティアの経験からの想いと重なり、今の想いである「自分が楽しくないと、その楽しさを相手に伝えられない」というものが出来上がりました。私の支援の根っこがこれなので、ケア・ハピネスの立ち上げの時にもこの思いを組み込んでグループ作りを行いました。なので、見学や体験・実習に来られた支援学校の先生や保護者の方から「みなさん楽しそうに笑って過ごされていますね」と言われる言葉が私の想いが伝わっているのだなと感じることができ、とてもうれしい瞬間です。

この想いを胸にもっと関わった方々が笑顔になれるような環境づくりをしていきたいと思っていますので、どうぞみなさん応援してください。



ケア・ハピネス  
サービス管理責任者  
村上 学



ゆめくらしワークス  
就労移行支援員  
瀬戸口 瑞穂

私の「安心・安全・やすらぎ」とは

仕事での困ったことを  
部署内で相談しながら  
情報共有ができてい  
ることです。

私は、チャレンジめいとくの里に入社して4年目です。入社して現在まで、ゆめくらしワークス事業部の就労移行支援の生活支援員として勤務しています。

大学では、心理学や特別支援教育について学び、療育活動を行なうサークルに所属していました。しかし、初めは、福祉の仕事ではなく、食品の卸し業を営む会社で総務部や一般事務の仕事をしていました。その会社では、障がいのある方が物流部門で、活き活きと仕事をされていました。特に、たくさんの商品名や商品の置いてある棚番号を暗記され、手早くピッキングされている姿が印象的でした。その姿を見て過ごす中で、障がいのある方の仕事内容や、職場の環境、職場の方の理解がどうされているのか、また、どんな周りのサポートがあるのかと疑問を抱き、障がいのある方の就労支援について興味を持つようになりました。そして、自分なりに調べ、就労移行支援という福祉サービスに携わりたいと思い、チャレンジめいとくの里に入社しました。

私が所属している就労移行支援では、障がいのある方が、一般企業を目指すためのサポートを行う最長2年間の福祉サービスです。就職に必要な知識やスキルの向上のサポートを行い、ご利用者様が企業へ実習を経験され自分に合った職場探しを一緒にこなしています。

入社した当初は、ご利用者様へどのように話したらよいのか悩むことがありました。その際は、先輩に相談することで、様々な事例や考え方を教えて頂きました。私が、初めて担当したご利用者様は、初めての場所や初めて関わる人に対して、緊張や不安が大きくなる方でした。担当のご利用者様にとって、安心できる存在になりたいと思い、ノートにご自身の不安なことや嬉しかった出来事を書いて来て頂き、それに私が返事をするやりとりを繰り返すことから始めました。すると、徐々に、自分の思いを話して頂けるようになりました。そして、2社の実習を経験されました。ご本人の気配りのある性格を活かして、介護施設での実習を行い、就職が決まった時には自分のことのように嬉しかったです。それから、2年程経ちますが、今でもめいとくの里へ電話して下さったり、来所されて、ご自身の仕事の悩みや嬉しいことなどを話して下さいます。就労移行支援を卒業され、就職後もめいとくの里での繋がりがあることに嬉しく思います。

ご利用者様の皆さんが、就労移行支援を利用する中で、徐々に自信をつけながら、自身に合った職場へ就職が決まった際は、私も嬉しく、やりがいを感じます。これからも、受講者の皆さんの強みに目を向けて、それを活かした職場に出会えるように就職活動のサポートをしていきたいと思っています。



私は入社して6年目になり、毎日たくさんのご利用者様の介護をさせてもらっていますが、日々新たな気づきを得たり、様々なことを学ばせて頂いています。

ご利用者様との関わりを持つ中で、そういった気づきや学びを得ることは、とても良い刺激になりモチベーションにも繋がっています。ご利用者様の生活の質が少しでも良くなっているのか？ その方が本当に求めている事は何かということを考えながら、支援することは「支援の難しさ」を痛感し悩むこともあります。と同時に、ご家族や周りの職員と相談しながら試行錯誤することは「支援の楽しさ」も感じる事が出来ています。

今、一番思うことは日々の生活の中で、ご利用者様が「楽しい!」「幸せ!」と感じて生活して頂くことが、私のなによりのやりがいで「支援員になって良かった」と思える瞬間です。

ご利用者様と職員が毎日楽しい時間が過ごせるような職場づくりができるよう、これからも日々の関わりを大切にしていきたいと思えます。

私の「安心・安全・やすらぎ」とは

ご利用者様と職員が  
笑顔で過ごすこと。



チャレンジめいとくの里  
女性棟マネージャー  
下田 友里加



ケアハピネス  
そよかぜ  
生活支援員  
嶋村 鮎美

私の「安心・安全・やすらぎ」とは

支援員で変わらない対応、  
態度、環境。

現在ケアハピネスで働いていますが、いつも私が思い出すのは初めて担当を持たせていただいたご利用者様との思い出です。

新人の頃は先輩方に教えていただきながらご利用者様の支援をさせていただきましたが、毎日苦悩の連続で、ご利用者様にどう伝わっているのか、どう感じられているのか、分かりやすく支持は通っているのか、自分が思ったような支援には到底及ばなかったことを覚えています。

ご家族にも毎日のように謝罪をする日々で、それでも温かく見守っていただき、信頼して預けてくださったご家族には本当に感謝しきれない思いでした。今でもその時の思いが毎日の支援の中で私の原動力となり、私の支援の在り方を支えてくれています。

今現在も毎日苦悩の日々には変わりありませんが、ご利用者様の力になれるよう私自身成長し続けていかなければと思います。



# SUPPORTER

サポーター

「食べること」は、身体を健康にしたり、楽しみや生きがいをもったり、活動や社会参加の場を作ったりと、様々なちからを私たちにもたしてくれれます。若いうちは、あたり前に、あまり考えずに行っていた行為でも、加齢とともに、不自由さや不安や危うさをもってしまふことがあります。利用者の皆さまが、「安心して、安全に、永く、食べる楽しみ」を持続けられるように、お一人おひとりの個性を尊重しながら、関わらせていただきたいと思います。



言語聴覚士  
本村 高志子先生



NPO 法人日本理美容福祉協会  
熊本中央センター  
坂西 和磨代表

平成27年よりチャレンジめいとくの里様へ訪問してヘアカットをさせていただいています、日本理美容福祉協会 熊本中央センターの坂西です。

毎回オーダーシートにご本人様、ご家族様の要望が書いてあったり、髪型の写真が貼ってあり、やりたいスタイルがわかりやすく説明してあるので、やりがいを持ってカットさせてもらっています。

月に1回の訪問ですがもうすぐ訪問し始めて5年になりますので入所者様、めいとくスタッフ様にも顔を覚えていただき、カットの日には笑顔で待っていてくださったり、道具と一緒に運んでくださる入所者様もいらっしゃったりと、喜んでくださっているのがわかり何うのが毎月の楽しみとなっています。また、毎年秋にあります「めいとくフェスタ」にもボランティア

スタッフとして過去に4回ほど参加しておりまして、ジュース販売をしながら、入所者様やめいとくスタッフ様とのコミュニケーションを楽しんでいます。

新しく入所された方や、他人に触られるのが苦手な方もいらっしゃいますので、めいとくスタッフ様の協力を得て最初はカットクロス(カットをする時にマント)を掛けるだけにしたたり、1部だけカットしたりと、私達とカットする事に慣れてもらえるように工夫も行ってあります。

チャレンジめいとくの里の施設内も明るく、入所者様とスタッフ様の和気あいあいとした雰囲気はほっこりします。部外者の私達ではありますが福祉理美容士として僅かではありますが、ヘアカットを通して皆様の生活の「その人らしさ」を引き出せるお手伝いができればと、努力してまいります。

以前はオーパスグループで1年、現在は入所部に移り2年勤務しています。

1年目はどういようご利用者様がいるのか、どう接していけば良いのだろうという不安がありました。2年目からは通所の方もいるグループから入所部に移り、接するご利用者様が違ったり、活動内容なども変わったりして初めのうちは戸惑うことも多くありました。

しかし、ご利用者様と接する中での、この方はこういうことが好きなんだ、得意なんだという発見は毎日変わらずあり、こちらが元気をもらったり笑顔になったりする出来事がたくさんありました。

3年目の現在は、担当の方のこんなことがしたいなという想いを汲み取って支援を行うことや、担当以外の方でもこの方はこういうことが好きだから生活に取り入れていけたらいいなという思いを大切に支援にあたっています。

今後もご利用者様の生活が充実し、笑顔に繋がるといような支援が出来るように努めていきたいと思っています。

## フェイス Face



チャレンジめいとくの里  
入所部 生活支援員  
後藤 菜那

私はケア・ハピネスで1年半医務と支援員の仕事をさせていただき、めいとくの里には今年の4月に移動してまいりました。前職では精神科の病院で15年ほど働いていました。

めいとくの里で医務の仕事をしていく中で一番感じた事は、ご利用者様が体がきつなくても何も訴えることが出来ないし、伝えることが出来ない方が多いということです。それでいかに早くその異変に気づき、その苦痛を早くとってあげられるか? 医務課ではご利用者様の定期的通院や薬のセットなどに日々追われ、ご利用様の傍に行き支援させていただくことがなかなか難しいです。そこでいかに早くご利用者様の異変に気づくかは支援員との報告・連絡・相談が一番重要になってくると思います。

支援員が行っている定期的な検温で「熱発された」などの連絡を受けて全身状態の観察を行い、通院するか又は、どの病院が適切か? など医務のスタッフや支援員・サビ管・施設長と共に相談し至急に対応しています。その後ご家族へ報告させていただいています。日々スタッフ全員で連携をとりながら、ご利用者様が安心して健康で幸せな毎日をめいとくの里で過ごしていただけるように努力してまいりたいと思っています。

去年はオーパスグループに携わらせていただいて今年に入所部に移っています。去年は初めてのことに戸惑う日々で夜勤業務や支援などを覚えるのに必死でした。先輩職員の対応をみながら、自分でやってみて成功したことを自分の物にすることに駆け巡っていたように思います。「なんでこうなるのだろう?」「どうしたらいいのか?」の分からない事がすぐわかった時の嬉しさを味わえるのが支援の楽しいところだとも感じました。

今でも支援の中で「なんでこうなるのかな?」と分からない事もたくさんある日々ですが、上司や先輩とも相談を重ねる中でコミュニケーションが自然に多く取れています。様々な意見はとても刺激的で各個人からの様々な視点は支援の材料です。

夜勤体制が3名体制となり、昨年よりも先輩職員の動きや支援など見ることが出来ており、覚醒者対応や入眠対応などさらに学ぶ事も出ています。また、昨年よりも水分補給や身体面、行動面に課題のある担当ご利用者様を多く受け持つことになり、日中帯や夜間帯の観察、関わる職員からの情報収集など多く行えるようになってきたと思います。

ご利用者様の日々の様子が新鮮で笑顔をもらうことも増えてきました。めいとくの「笑顔」をモットーに頑張っていきます。



チャレンジめいとくの里  
入所部 生活支援員  
本田 千尋



チャレンジめいとくの里  
医務課 看護師  
元田 香世子



やまぼうしの会は、平成25年度の家族・職員懇親会のなかで、ご家族から「親も高齢化すると施設に出かける機会が少なくなり、親同士も会って近況などを話し合う機会が少ないので、そういう機会があったらいいですね。」というご意見がだされました。そのご意見をもとに、平成26年度から年2回茶話会を開催することになりました。

第1回の開催を終えたところで、家族の年齢差などもあり共通の話題やテーマがないと茶話会では話が深まらないという意見が出され、ご家族の皆さん共通の話題である「親亡き後の生活～親あるうちの準備～」というテーマで茶話会と勉強会を合わせた形での会を開催することになりました。そして、会の名称もチャレンジめいとくの里のシンボルツリーであるヤマボウシの木にちなみ、「やまぼうしの会」という名称をつけさせていただきました。

以下、第2回からの開催内容です。

- ・エンディングノートについて
- ・ご利用様が入院されたときの諸課題について
- ・成年後見制度の取組の実際
- ・高齢のご家族が地域で生活していくために
- ・遺言書の意味と書き方
- ・親亡き後を考えましょう
- ・ホテルでの食事会・行政書士さんからの報告
- ・デジタル遺産について

などの内容で外部講師をお招きしたり、法人の職員が講師となったりして実施してきました。

令和元年度では、熊本県金融広報アドバイザーの広瀬美貴子氏をお迎えし開催することができました。広瀬様からはご家族に万が一のことがあった場合、銀行の暗証番号やパソコンなどのIDやパスワードなど、ご本人しか知らない情報をどのように伝えておくかなど大変参考になるお話を伺うことができました。

このように様々な内容で開催してきましたやまぼうしの会もおかげ様で6年目を迎えています。今後も、テーマに沿った内容をご家族の皆様と相談させていただきながら開催していきたいと考えています。



講師の先生による勉強会の様子

PICK UP!

## やまぼうしの会



地域生活支援センター  
メイト  
相談支援専門員  
森田 洋子

私は今、地域生活支援センターメイトで相談支援専門員として勤務しています。事務所はオレンジハウス内にあります。昨年の10月に開所して1年を迎えたばかりの新しい事業所です。

相談支援専門員としての仕事は福祉サービスを受ける上での諸手続きを行う事はもちろん、福祉サービスの利用に関すること、生活に関すること、家族に関すること、体調に関する事の相談等多岐にわたります。相談に来られる方にはその方の生活があり、想いがあり、夢や希望があります。その方がいかに自分らしく、夢や希望をもって日々を生活していけるかを一緒に考え、具体化していくのが相談支援専門員の役割だと捉え、「お一人おひとりを丁寧に、心のこもった相談支援を行う」ことをモットーに日々の業務に当たっている所です。

私自身も相談支援専門員として働き始めてまだ2年目で知識、経験共に力不足を痛感する毎日です。どうしようかと迷った時、支援方針に行き詰まった時にいつも思い出すが、相談支援専門員として配属される前の事です。

私は生活介護(入所)で7年間、ゆめくらしワークスで5年間勤務させて頂きました。支援員として未熟だった私を周りの職員の方々が助けってくれ、ご利用様とご家族が支えてくれました。その経験は相談業務を行う上で私の原動力となっています。

これからは私が恩返しする番だと感じています。多くの方々が安心してサービスを受ける事が出来るよう、より良い支援が提供できるよう明徳会の一員として努めていきたいと思っています。



チャレンジめいとくの里  
入所部 生活支援員  
安井 和美

入社して9カ月が経ちました。まず最初に、入所部と通所部の利用者の方々の名前を必死に覚えめました。事務の方に頼んで利用者の方々顔写真を頂き、それをメモ帳に貼り、利用者の方に声をかけする時、メモ帳を確認し、名前を呼んでから話しかけることを心がけました。

私には子どもが2人いて、2人とも発達障がいがあります。今まで必死に勉強し実践してきたことを活かしながら、利用者の方々を支援をしています。

しかし、利用者の方の思いをきちんと受け取れずもどかしい気持ちになり、心がザワザワした感じになる時があります。

1ヶ月目くらいのときでした。その日はうまく支援できないことがあり、心がザワザワしていました。このままでは利用者の方に伝わってしまうと焦っていました。ある利用者の方をトイレ誘導したときのことです。いつもは独語が多いのですが、その日は簡単な会話ができるくらい落ちついていらっしゃいました。その利用者の方がトイレに座ってすぐのことです。私の腕にある痣を優しく撫で「大丈夫?」と聞いてくださったのです。「痛くないですよ」と伝えると「そう?」と微笑んでくださり腕を擦ってくださいました。一瞬でザワザワした気持ちはなくなり涙がでるのをぐっところえました。本当にやりがいのある仕事です。

家で子どものこだわりが出て、声かけの言葉を間違ってしまう心がザワザワしたまま出勤したことがありました。でも利用者の方と手を繋ぎ、言葉のやりとりをしているうちに落ちついた日もありました。満面の笑みに癒されることもたくさんあります。逆に利用者の方の言葉掛けがうまくいかず落ち込んで家に帰ると、外に干したはずの洗濯物がたんでしまっており、子どもの成長を感じながら明日も頑張ろう!と思えたこともあります。

まだまだ利用者の方々思いにしっかり気付くことができないことがありますが、経験を積みながら学び、日々利用者の方々に寄りそっていきたくと思っています。



## THANKS FEEDBACK

見学の感想をいただきました  
サニーサイドの職員の皆さん  
ありがとうございました

# 「ケアハピネス。 めいとくの里見学にて」

実施日:令和元年9月11日(水)

参加者:サニーサイド職員4名

報告者:主任支援員

小北 京佑さん



### ・ケアハピネスを見学させていただき

ケアハピネスでは専門的な支援者が在籍しており、細やかな支援を行うとともに権利擁護にも積極的に取り組まれていました。部署は重度利用者に特化した「らふ」、強度行動障害に特化した「そよかせ」、働く事でやりがいを感じられる「Rog café」に分かれており、利用者の方々の個性に合わせた支援を提供していると感じました。更に個人入浴の時間を設けており、自宅で入浴が困難な方にも入浴機器による支援が実施されていることに支援の細やかさが見られました。

また、学生ボランティアの受入れにも力を入れており、ボランティアの方が勉強の一環として普段の支援や業務に携わり、それにより職員の方はより専門的な支援を提供できる環境が整っていました。サニーサイドでも、より風通しの良い施設にして行くため支援にも携われるボランティアの受入れを行いたいと感じました。

見学を通して支援だけでなく、創作物一つにしても細部にまで利用者に寄り添った物になっており、この細やかさがケアハピネスの魅力であり、私の大きな学びとなりました。

### ・めいとくの里を見学させていただき

めいとくの里のゆめくらしワークスでは、就労移行支援・就労定着支援を行っており、「就職に向けた準備」「働き続けるためのサポート」についてプログラムを組み立てて、トレーニングを積極的に行っていました。見た事を活かしてサニーサイドでは生活介護から就労移行支援B型に繋がられるよう、トレーニングを実践できるようにと強く感じました。

施設入所では、各利用者の方の特性に合わせた、様々な工夫や支援が施設内にあり、理解しやすいように職員の方のオリジナルの道具を準備している事がとても参考になりました。

服薬に関してもお話を伺い、めいとくの里で取り組んでいる医務によるダブルチェックや職員チェック、配薬時の確認方法などを細かく教えていただき、サニーサイドにおける服薬管理のより一層のリスクマネジメントに繋がっていかれたらと思います。

別の事業所との交流を増やしていく事で、福祉の横のつながりや情報の共有になる良い機会だと感じました。今回、お忙しい中丁寧な説明と対応をいただきました職員の皆様に、感謝申し上げます。ありがとうございました。

## NEWS

「自分のことだから、自分でできる。」

そんな当たり前のことを当たり前でできる場所。

本当の意味での自立です。自立とは、なんでも自分でやって生活することではありません。

自分で選んだり決めたりして、出来ないところは支援をお願いしたり、仲間と助け合いながら生き生きと生活することです。

自分の力で足りないところはスタッフがしっかりサポートします。

アクアテラスは、まだ日課やルールはありません。入居されてから、

仲間といっしょに話し合いながら決めてください。自分たちのことだから。



2020年8月OPEN!

障がい者グループホーム **アクアテラス**  
ゆめくらし事業所では  
オレンジハウスに続く  
2つめのグループホームを  
現在建設中です。

施設概要  
障がい者グループホーム アクアテラス  
設置主体 社会福祉法人明徳会 ゆめくらし事業所  
敷地面積 1,400㎡  
木造平屋建て 489.77㎡ 居室10室 体験ルーム1室 他





私の「安心・安全・やすらぎ」とは  
娘が輪ゴムを口にくわえて  
大好きなテレビを楽しそうに  
見ている姿です。

## めいとくの里に入所して

チャレンジめいとくの里 入所家族会  
堅島 誠一 会長

私がめいとくの里を知ったのは、今から十年くらい前になります。

娘の千恵が大津養護学校を卒業して、通うようになってからのことです。

その頃は娘の事は妻に任せっぱなしだったので、勿論めいとくの里がどのような施設なのかよく理解していませんでした。たまに、フェスタを見に行くのがやっとという感じでした。そのような日々が、何年か過ぎて入所部に空きができて入所することになりました。

今から三年前の事でした。最初の帰省の時、熊本地震に遭いました。我が家も食器棚が倒れて足の踏み場も無い様な状態でしたが、めいとくの里は被害が少なかったということで、直ぐに娘を預けることができ、家の中の片づけを早く終えることができました。

入所の際、私の気持ちの中では少し早いのではないかという思いがありましたが、この時はつくづ

く思いました。入所していて良かったと。

それからもう一つ、入所して良かったことがありました。これは、色々な人や、色々なところで話していますが、入所前は七十キロ位有った体重を、現在五十キロ位まで減量して頂いたことです。これは、ひとえ偏に栄養を管理された食事のおかげだと思えます。

入所して三年半が過ぎ、娘が居ない生活パターンにもだいぶ慣れてきました。

長年勤めた会社も一区切りついたので、何かやることはないかと思っていたところに妻から入所部家族会のお手伝いの話を聞いて、何かお役に立てる事ができるならという軽い気持ちでいたのが、いつの間にか役員になっていました。まだまだ何をやればいいのか分かりませんが、子ども達の為になることや、そして支援員さん達に協力できることがあるならば、微力ではありますが、精一杯やらせて頂こうと思っています。

voice

大竹 喜栄さん

(元職員)

合同会社 三幸会  
グリーンヒルズ須屋  
サービス管理責任者



私の「安心・安全・やすらぎ」とは

それは、「家族の笑い声」です。  
たわいもないことで家族が  
笑っているときが  
一番うれしいです。

## 「大竹さん、日本一のグループホームができたよ！」

と松村施設長(当時めいとくの里施設長)からお声をかけていただいたのが、8年前でした。当時私はグループホームについて勉強したいと思っていた時でしたので、悩むことなく、「動かしてください」と自らお願いして面接していただいたことを、最近のことのように覚えています。

オレンジハウスの夜勤勤務とめいとくの里の勤務を7年半させていただきました。オレンジハウスは常駐の世話人さんがおらず、シフト制による交代での勤務になります。私はそこが良いところではないかと思うのです。世話人もそれぞれ年齢や性格が違いますので、それぞれ気づくところも、得意分野も違います。お互いの良いところを出し合って、入居者様のための支援につながっているのではないかと思います。入居者様もよく理解されていて、何かを依頼されるとき、世話人の得意分野を見分けてから言ってこられます(笑)。

オレンジハウスでMKさん、UTさんの担当をさせていただきました。担当になり、ご家族様と直接お会いして、ご家族の思いや願いそして今までのことなどをお聞きすることで、ご利用者様をより身近に思えるようになりました。まさに担当愛が芽生えるのです。そしてめいとくの里ではいろんな経験をさせていただきました。いろんなグループに所属させていただき、一泊旅行や季節の行事など楽しい思い出がたくさんあります。私がこの7年半の間いつも思っていたことは、めいとくの里の良いところはコンプライアンスがしっかりしていること。そしてまさに「チャレンジ」の機会を与えてくださるところだと思います。これからもめいとくの里で学ばせていただいたことを忘れずに頑張っていきたいと思っています。





障がい者支援施設  
**チャレンジめいとくの里**

生活介護 施設入所支援 短期入所 日中一時支援  
 〒861-5503 熊本市北区明徳町707-1  
 TEL096-215-9101 FAX096-245-2344  
 mail:c.meitoku@meitokukai.jp

**ゆめくらしワークス事業部**

就労移行支援 就労定着支援 生活訓練  
 就労継続支援B型  
 TEL096-215-9103 FAX 096-273-6343  
 mail:meitokunosato-works@meitokukai.jp

障がい者グループホーム

**ゆめくらし事業所  
orangehouse**

共同生活援助  
 〒861-5503 熊本市北区明徳町948-1  
 TEL096-223-5161 FAX096-245-5951  
 mail:yumekurashi-orange@live.jp

障がい福祉サービス事業所

**ケア・ハピネス**

〒861-5512 熊本市北区梶尾町1379-3  
 TEL096-245-6611 FAX096-245-3399  
 mail:happiness@meitokukai.jp

熊本市障がい者相談支援センター

**チャレンジ**

相談支援事業  
 〒861-0844 熊本市中央区水道町12-1 1-B号  
 TEL096-312-3550 FAX096-312-3551  
 mail:soucha@meitokukai.jp

地域生活支援センター

**メイト**

相談支援事業  
 〒861-5503 熊本市北区明徳町948-1  
 TEL096-227-6450 FAX096-227-6451  
 mail:mate@meitokukai.jp



OFFICIAL WEBSITE

<http://www.meitokukai.jp>



明徳会 facebook  
<https://www.facebook.com/meitokukai>



明徳会 instagram  
<https://www.instagram.com/meitokukai>



ゆめくらしワークス facebook  
<https://www.facebook.com/yumekurashiworks>



めいとく日和BLOG  
<https://ameblo.jp/meitokukai>



「障がいがあってもなくても、誰もが能力を発揮でき、いきいきと暮らせる熊本市」を目指して、「障がいサポーター制度」の普及などに積極的に協力を企業や団体として「障がい者サポート企業・団体」として認定されました。



「明徳会」は、働く人がいきいきと輝き、安心して働き続けられる企業「ブライト企業」に認定されました。  
 ※ブライト企業とはブラック企業と対極の企業をイメージした熊本県の造語

